

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第23回

森の彫刻家

上床利秋

ケンタウロスの賢者ケイロン

すぐそばに雄大な高千穂の峰がそびえ立つ杉安病院のロータリーに設置する彫刻について、私は3点のアイデアを準備していた。

1つめは、肩車している爺さんと孫の家族愛をテーマとするもの

2つめは、弓を放つ隼人族

3つめは、ケンタウロスのケイロン

三枚のアイデアスケッチを依頼者にプレゼンしたら、答えは即決だった。その理由は院長さんが、たまたま無類の馬好きだったのだ。

意志の強さに加えて永遠の若さとロマンを覚えるケンタウロスは、自由な個人病院に似合っている。

半円形のくぼみをエントランスにしたおしゃれな形の病院は、ケンタウロスがロータリーに立つと健康の城のようにも見えてくる。平穩を好むケイロンの放った一矢が災害を未然に防ぐ願いを込めて、弧を描きながらまさに山の頂に届こうとするイメージとして作品を鑑賞していただきたい。

アイデア①



アイデア②



アイデア③



ケイロンにまつわるギリシャ神話

半人半馬であるケンタウロス族のケイロンは、賢者と称される。賢明で正しく、医療、音楽、狩猟に通じていた。英雄アキレウスや、イアソンなどは少年時代ケイロンに学んだ。ある日、血気盛んで若い教え子ヘラクレスが、けんかで放った弓矢で、ケイロンは仲裁に入ろうとした時に自分の足を怪我してしまっ。ヘラクレスは謝る。

しかし矢には毒が塗ってあり、痛みは次第にひどくなる。不老不死のケイロンは死ぬことができずに苦しみに続く。そのためケイロンは万能の神ゼウスに頼んで死ぬことを決意する。

不憫に思ったゼウスはその願いを聞き入れるが、晴れた夜空に射手座として蘇らせた。オリオンの音色をさそり座のスコピオンが邪魔せぬように、ケイロンは弓を弾いて構えている姿として。

矢車草は、ケイロンが薬草として用いたという伝説がある。

日展審査員 第一幼児教育短期大学教授